

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		04 03 18	中期総合計画主要施策番号		3-04		担当課	部・課	社会部長寿福祉課	
事業名		認知症地域医療支援事業				内線		2436		
						E-mail		choju@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・高齢化が進む中、認知症高齢者の増加が予想されており、認知症を早期発見し、適切なケアを行うため、高齢者が日頃から健康上の相談をする地域のかかりつけ医(主治医)に認知症に関する助言ができるサポート医を養成するとともに、かかりつけ医に対して、認知症に係る研修を実施し、地域で認知症の高齢者等を支える体制を整備する。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)]								
		・認知症高齢者が増加しているが、かかりつけ医に認知症に係る知識(基礎知識、診断方法、治療とケア、介護との連携など)が不足している。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)]								
	事業内容	・認知症専門医師によるかかりつけ医へのサポートが不足している。 ・かかりつけ医に対する認知症に関する研修機会が不足している。								
[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)]										
実施期間	H19 ~	根拠法令等	「認知症対策等総合支援事業の実施について(認知症地域医療支援事業)」厚生労働省老健局長通知							
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	・認知症に関する基礎知識を身につけ、日々の診療等で認知症の早期発見や介護と連携し適切な認知症ケアに結びつけるために、かかりつけ医が研修を受講し、認知症高齢者を支える体制を整備する。		・認知症サポート医研修 新たに8人の養成を行う。 ・かかりつけ医研修 医師会会員医師(約2,700人)1割超の受講を目指す。			・認知症サポート医研修 新たに8人を養成した。 ・かかりつけ医研修 新たに122人に研修を行い、計385人の医師が研修を修了し、医師会会員医師の1割以上となった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	1,091	990	1,014	国庫・県単	国庫・県単		
	決 算 額 (B)		千円	1,050	823		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	535	324	507	歳出節別	報償費:203		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.10	0.10	0.10	内訳等	旅 費:34		
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	1,764	1,538	1,729	(単位: 千円)	需用費:129 委託料:400 使用料:57		
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	サポート医の養成		人	8	8	8				
	かかりつけ医への研修の実施(累計)		人	263	122(385)	200(585)				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	認知症高齢者の増加が見込まれることから、引き続き認知症サポート医の養成とかかりつけ医への研修を進めていく必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		・増加が見込まれる認知症高齢者への医療面の支援が必要なことから、引き続き実施していく。								